

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍にて、ご家族とご利用者様が直接お会いしゆっくり話す機会はない状況。また、地域行事や地域住民等の交流はできていない。	コロナウイルス等十分な感染防止対策を実施しながら、利用者が家族や地域住民との交流を継続できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・面会方法の工夫や外出の機会を活用し、利用者と家族がふれあうことができるようにする。 ・自宅への一時帰宅で家族と過ごしたり、馴染みの商店での買い物、美容院等への外出を支援し、馴染みの人との交流を継続する。 ・地域の行事や施設の行事に、家族や地域住民にも参加していただけるよう働きかける。 ・利用者の1日の生活を動画や写真に撮って、面会時に家族に見て頂く。また、アルバムにして家族へお渡しする等、普段の様子を感じて頂く。 	12か月
2	35	現状では、地域住民等の協力体制は得られていない状況。	協力施設や地域住民の協力を得て万全な災害対策ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や近隣施設(野辺地西高校、野辺地ホーム等)への協力体制を構築していく。 ※確実に参加いただける、職員の家族、友人等身近なところから参加を促していく。 ・避難場所(屋根のあるところ)を定めて、避難訓練を実施する。 ・体制構築に向け、町内会長や運営推進委員等の助言を受け地域に広く発信できるようにしていく。 	12か月
3	40	嚥下機能の低下や疾患が多様化しているが、献立作成に伴う栄養バランスや食事形態等について、栄養士等専門職の意見を聞く機会はない状況。	利用者の状態に合わせた、食事(摂取)、栄養確保(管理)により、栄養バランスの良い食事ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・献立作成について、「栄養の偏りはないか」専門職により見て頂き、栄養指導やアドバイスをいただく。 ・嚥下体操等により機能の低下を予防し、食べる、噛む、飲み込むが自力ででき、食事を楽しめるようにする。(保健師、協力医の指導を受ける) ・食べたいもののリクエストを聞いたり、郷土料理等盛り込んでバラエティー豊かな食事を提供する。 	12か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。